

## 水質総量削減制度に係る取組みの実施状況

# 海辺つくり研究会の活動と 海辺環境の管理について

海辺つくり研究会・理事 古川恵太

## まとめ

- 海辺と人の関係の再生  
( 自然を賢く使い、恵みを得ること )
- アマモ場の再生  
( 正しく知ること、行動すること )
- お台場での海苔作り  
( 環境の変動に合わせて順応すること )
- 江戸前八ゼや多摩川干潟の調査  
( 貧酸素と河口環境を注視すること )

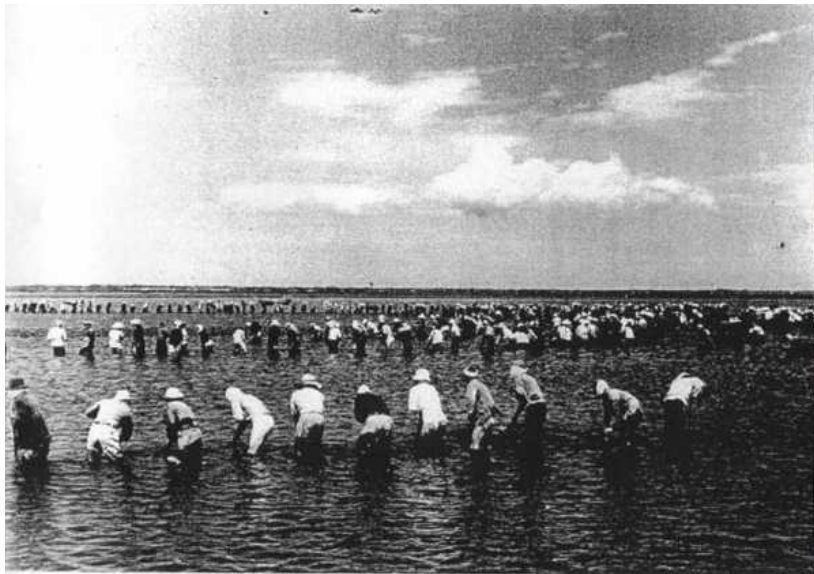
# 海辺と人の関係の再生

昔より海辺は、人々の身近にありました。古くは干潟で魚介を漁り貝塚をなし、海草であるアマモを捧げて穢れを祓い、近代にはウナギを始めとする江戸前の食文化を育み、海苔の養殖、ハゼ釣り、潮干狩りと生業（なりわい）と楽しみの場として、人々は海辺を賢く利用してきました。

そうした海辺は、人々にとって脅威でもあります。高潮による海岸の侵食、津波の襲来、飛沫による塩害に対し、当初は、高台に居を構え海辺に通ったり、防風林を造成したりするなど、海辺の自然と共存しながら折り合いをつけてきました。

# 安全で安心な海辺の恵み

私たちは、いつでも安全に安心して水と触れ合える海辺であってほしいと思っています。また、そうした海から得られる恵みをいつまでも享受できるような使い方をしていけたらと望んでいます。



「写真が語る東京湾 消えた干潟とその漁業」大田区郷土資料館編集発行



横浜市・本牧での海の祭 落合氏撮影



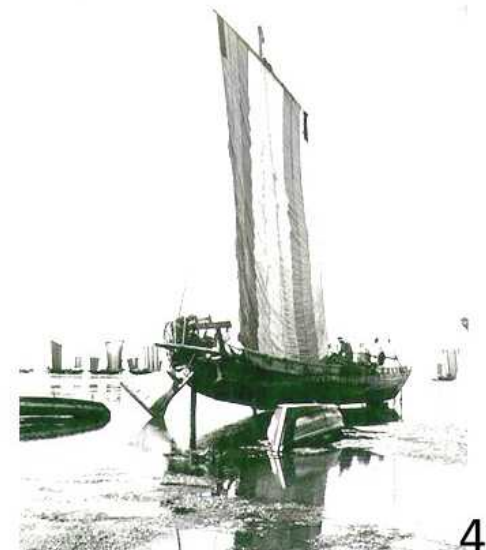
脚立釣りの再現



市川市 澤田洋一さん所蔵 昭和30年頃の三枚洲沖のハゼ釣り船



1800年代の伊能中図と明治41年(1908年)「東京湾漁場図」の重ね合わせ



打瀬船

# アマモ場の再生

海辺の特徴的な生態系であるアマモ場から、人は多くの恩恵を受けています。現在、多くのアマモ場が消滅・衰退の危機にあると言われていています。その再生には、自然の摂理にかなった辛抱強い働きかけが必要です。

岡山県備前市日生地区で漁業者が中心となり30年かけて再生されたアマモ場は、カキの生育を助けていると言われていています。

市民が力を合わせて移植した神奈川県横浜市野島海岸でのアマモ場は、浅場のかく乱と沖の濁りの狭間の狭い帯域で再生しました。環境条件を良く調べれば、アマモ場の再生は可能と思った矢先に、赤潮が原因と考えられる無酸素水の襲来により壊滅されました。

福井県小浜市小浜湾でのアマモ再生に挑んだ高校生、それを支える大人達、全国アマモサミットでの応援。しかし、海底にたまった浮泥と濁りが移植アマモの生育を阻み、再生は進んでいません。また、そうした状況や活動は、市民のほとんどは知りません。

環境の現状を正しく知って、正しく行動することが求められていると思います。



木村尚撮影



© 福井美香



木村尚撮影



日生町漁協によるアマモ場再生

# お台場での海苔作り

東京湾奥の環境は、大変厳しい状況にあります。お台場で海苔作りを始めようとしたときには、誰もが「無理ではないか」と考えました。しかし、実際に始めてみると、驚くほど良質な海苔が豊富に収穫できたのです。

しかし、その状況は年ごとに異なり、水質と成長度合いの関係を調べたら、水温低下や栄養塩不足、海苔網の設置高さの不備、カモによる食害など、様々な原因が推測されました。

そこで、お台場海苔作り実行委員会のメンバーは、潮の引く夜に集まり、毎週のように網の高さをかえたり、鳥よけの網を張ったりし、きめ細やかにお世話をし、今年は、豊かな収穫を得ることができました。

同じような状況（水質）であっても、その対応次第で恵みを得ることができる可能性が示されたように感じています。そうした柔軟な対応ができる順応性が大切だと思います。



お台場海苔作りの様子



5月 赤潮が発生して、中層は暗黒になった。

東京港水中生物研究会撮影



関東地方整備局撮影



# 江戸前マハゼや多摩川河口の調査

マハゼの減少は、棲み処（すみか）の減少が主な原因と考えられています。住み処を探し、現状を把握するために、釣り調査を行いました。すると、貧酸素水塊を避けながら生息している様子が見えてきました。

運河や河口部のマハゼは、地先海域の貧酸素化より、夏から秋に海に降りられない状況があるようです。その結果として、運河や河口域に留まって成長しているものや、夏に産卵し秋から冬に海に降りるように生活史を変化させたものも居るようです。

河口域は、人と海辺の接点として貴重な場所です。その地形、生き物の分布などは変わりやすく、開発の影響などについて慎重に見守っていく必要があると感じています。多摩川河口では、SCOP100と称して市民によるモニタリングを実施しています。アサリとシジミの生息場の変化、ヨシの広がりや地形の変化などダイナミックな自然の変化が観測されています。

貧酸素水塊の対策を中心とする水質改善と、河口・運河部での生き物の生息場の保全・再生を同時に進めていく必要があるように感じます。

